

特殊報第2号

各関係機関団体の長  
各病害虫防除員 ) 殿

福岡県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察特殊報第2号について

このことについて、病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

キク

1 病害虫名 キク茎えそ病

2 病原ウイルス名 *Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)

3 特殊報の内容

(1) 初発生確認の経緯

平成22年5月、久留米市三潴町の施設キク栽培において、葉にえそ症状を呈する病害が発生した。外見上、トマト黄化えそウイルス(TSWV)によるキクえそ病に酷似していたため、当所で検定(RIPA法)を行ったが、TSWVは検出されなかった。

このため、県農業総合試験場においてRT-PCR法により検定した結果、*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)によるキク茎えそ病であることが確認された。また、独立行政法人九州沖縄農業研究センターに同定依頼した結果、キク茎えそ病と同定された。

(2) 病徴(被害)と診断

CSNVに感染したキクは、茎に明瞭なえそ症状(写真1)を生じ、葉柄基部に同症状が生じると葉が垂れ下がることもある。葉には退緑・えそ斑・奇形(写真2、3)を生じる。TSWVによるキクえその症状と酷似しているため、病徴から病原ウイルスを特定することは困難である。

このウイルスは、遺伝子診断(CSNV特異的プライマーを使用した)RT-PCR法により判別する必要がある。

(3) 生態と伝搬

本ウイルスはトスポウイルス属に分類される。本属には、トマト黄化えそウイルス(TSWV)、メロン黄化えそウイルス(MYSV)、インパチェンスえそ斑ウイルス(INSV)、アイリス黄斑ウイルス(IYSV)など、近年問題となっている重要な病害ウイルスが含まれる。

本ウイルスは、ミカンキイロアザミウマの1齢幼虫が罹病植物を吸汁することで、永続伝搬するとの報告がある。

なお、感染親株からの挿し木や接ぎ木などの栄養繁殖によっても伝染するが、種子伝染や土壌伝染はしないと考えられている。

永続伝搬：ウイルス媒介能力が、媒介虫の生存期間の長期間～一生持続する。

#### (4) 分布

国内では平成18年9月に広島県で、九州では平成20年に熊本県で、平成21年に鹿児島県及び宮崎県で発生の報告がある。

#### (5) 感染植物

感染が確認されている農作物は、キクのほか、トマト(本県では未確認)などがある。

#### (6) 防除対策

従来から発生しているキクえそ病に準じる。

- 1) ウイルスを媒介するミカンキイロアザミウマの防除対策を行う。特に親株床での防除を徹底し、無病苗を確保する。施設栽培では、ハウス開口部の防虫ネット等による被覆を行い、本種の侵入を防止する。
- 2) 発病株は伝染源となるので、抜き取ってすみやかに処分(埋設または焼却)し、二次伝染防止に努める。
- 3) ほ場周辺やほ場内の雑草はミカンキイロアザミウマの発生源になるので、除草を徹底する。
- 4) 施設栽培では、ミカンキイロアザミウマの施設外への飛び出し防止のため、栽培終了時にハウスの密閉処理を行う。



写真1  
茎のえそ症状



写真2(左)、3(右)  
葉の退緑えそ症状